

早稲田大学スチューデント・ダイバーシティ・センター
ジェンダー・セクシュアリティ・センター
2024年度活動報告書
第8号

2025年5月発行



WASEDA University
早稲田大学

目次

- 00. はじめに
- 01. ジェンダー・セクシュアリティセンター（GSセンター）概要
- 02. 活動：うけとめる・つなげる・つたえる・ひろげる
- 03. 次年度に向けて
- 04. ソーシャルメディアと連絡先

00. はじめに

本活動報告書はジェンダー・セクシュアリティの多様性に関する、およびLGBTQ+の方々へのサポートを行う、そして始めようとしている多くの教育機関、企業、公共団体等の皆様方の目に留まり、それぞれの活動において、多様性を支援するための一助となるよう、そして何よりもLGBTQ+学生や、ジェンダー・セクシュアリティに関心のある全ての人（アライ含む）に対して、本センターがセーフスペース兼リソースセンターとして継続した活動ができる報告となるよう、公開するものです。

早稲田大学スチューデント・ダイバーシティ・センター
ジェンダー・セクシュアリティセンター（GSセンター）活動報告書 第8号

2025年5月 発行

編集・発行者 早稲田大学スチューデント・ダイバーシティ・センター
ジェンダー・セクシュアリティセンター（GSセンター）

問い合わせ先 gswaseda@list.waseda.jp

ウェブサイト <https://www.waseda.jp/inst/gscenter/>

無断コピーおよび無断転載を禁じます。コピー・転載・引用等される際には、必ずメールにてご連絡いただきますようお願いいたします。



WASEDA LGBTQ+ ALLY WEEKS 2024のスローガン「ワセダに広がるアライの輪」を表現した、学生スタッフが作成したロゴ

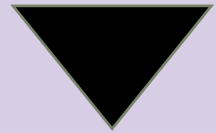
01. GSセンター概要

- ◆ 役割
- ◆ サービス・サポート
- ◆ 開設までの歩み
- ◆ 組織体制
- ◆ 勤務体制



「WASEDA QUEER PARADES OF REMEMBRANCE 追悼」で戸山キャンパスを行進する様子

役割



▼GSセンターは、早稲田大学のLGBTQ+（性的マイノリティなど）学生や、ジェンダー・セクシュアリティに関心のある全ての人（アライ含む）の居場所であり、誰もが自由に利用できるセーフスペース兼リソースセンターです。

▼The Gender and Sexuality Center (GS Center) is a safer space and resource center for LGBTQ+ students and everyone who is interested in issues related to gender and sexuality, including allies to the LGBTQ+ community.



学生スタッフが、GSセンター紹介動画をリニューアルしました。

<https://www.youtube.com/watch?v=O-CQhPpHMTU>

サービス・サポート



個別相談

ジェンダー・セクシュアリティに関する疑問や違和感、心配事、現在や将来的なウェルネスなどの相談に、守秘義務を厳守し、プライバシーを守って専門の職員が対応します。相談者のニーズに応じて学内外の適切な機関をご紹介します、可能な範囲で連携します。



コミュニティ スペース

利用者同士や学生スタッフ/職員とのジェンダー・セクシュアリティに関する話や情報交換を行える場所や、セーファーな気持ちで食事や授業の課題など、思い思いに過ごすことができる場所としてのコミュニティスペースを運営しています。



図書スペース

比較的最近出版されたジェンダーやセクシュアリティに関する書籍や映像作品などを豊富に取り揃えています。また、学内外の関連団体のリーフレットやイベントフライヤーなども設置しています。閲覧の他、書籍は貸し出しも行っています。



イベント

ジェンダー・セクシュアリティに関するトピックスについての学び、啓発、意見交換、参加者同士のつながり作りやゲストとの交流の機会として、学生を対象とした小中規模や、一般に開かれた大規模イベントを企画・開催しています。

GSセンター開設までの歩み



2015年3月

学生が大学に対して公的に提案を行う
Waseda Vision 150 Student Competition 第3回
大会で学生団体ダイバーシティ早稲田によ
る『日本初！LGBT学生センターを作る』が
総長賞を受賞しました。



2017年4月

早稲田大学学生部の外局である「スチュ
デントダイバーシティセンター」内にGSセ
ンター開設！

大学主導で組織されたのではなく、学生の
提案により新しく組織されたことが大きな
特徴です。

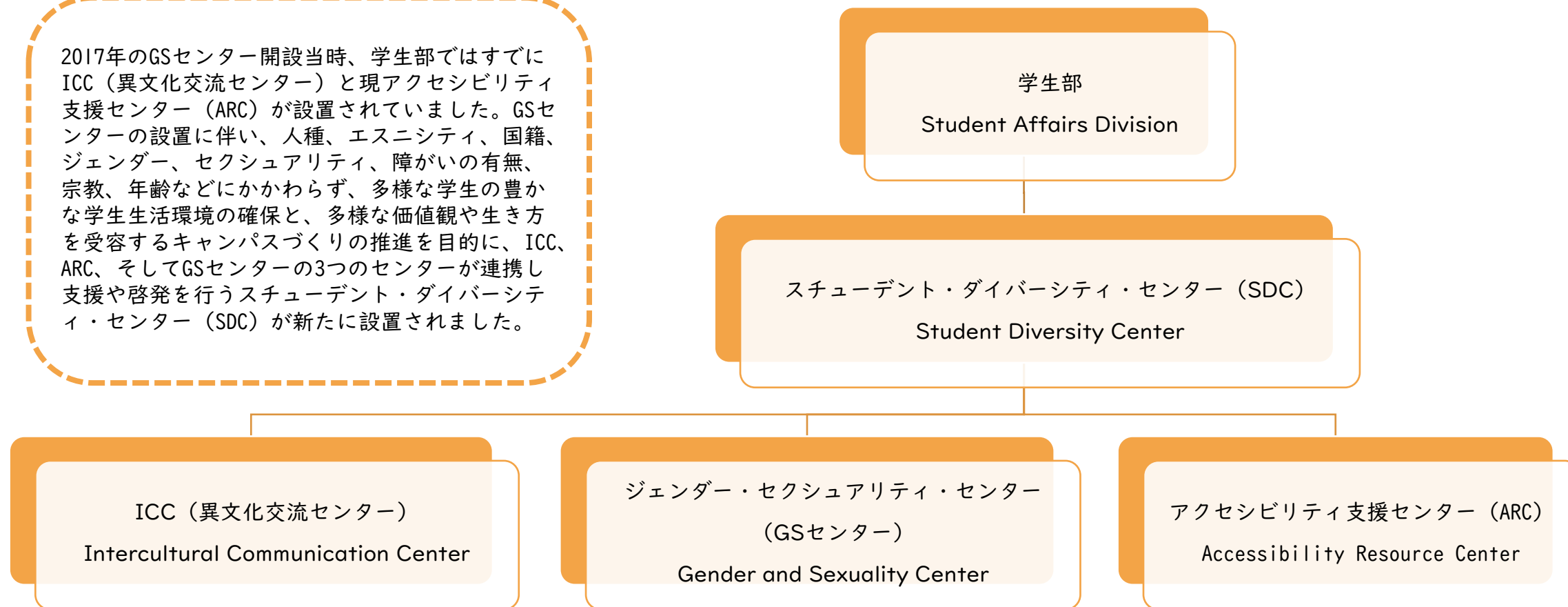


2015年4月-2017年3月

職員を中心としたワーキンググループが発足
し、学内各箇所及び関連サークル等が連携し、
センター開設に向けて検討を重ねました。各
種講演会やヒアリングも実施されました。

組織体制

2017年のGSセンター開設当時、学生部ではすでにICC（異文化交流センター）と現アクセシビリティ支援センター（ARC）が設置されていました。GSセンターの設置に伴い、人種、エスニシティ、国籍、ジェンダー、セクシュアリティ、障がいの有無、宗教、年齢などにかかわらず、多様な学生の豊かな学生生活環境の確保と、多様な価値観や生き方を受容するキャンパスづくりの推進を目的に、ICC、ARC、そしてGSセンターの3つのセンターが連携し支援や啓発を行うスチューデント・ダイバーシティ・センター（SDC）が新たに設置されました。



勤務体制

専門職員	専任職員	学生スタッフ
ジェンダー・セクシュアリティに関する専門知識と経験を有する嘱託職員 - 常勤1名 - 非常勤1名 - 対応言語：日本語・英語	- SDC課長（学生生活課課長兼務）1名 - SDCジェンダー・セクシュアリティ・センター課長（学生生活課学生寮デスク課長兼務）1名 - GSセンター専属1名 - 学生生活課兼務3名/奨学課兼務1名/キャリアセンター兼務1名/競技スポーツセンター兼務1名/WAVOC兼務1名/保健センター兼務1名 - 対応言語：日本語	8名（学部生、院生） - 対応言語：日本語・英語・中国語（漢語・中文）・韓国語
専門職員業務内容	専任職員業務内容	学生スタッフ業務内容
- 個別相談対応 - 学生スタッフサポート - イベント企画運営 - 教職員への啓発活動・コンサルテーション - 他箇所との連携 - センター内リソースの管理拡充 - その他GSセンター運営に関する業務	- 他箇所との連携 - 学内外への活動紹介 - 職員勉強会の運営 - イベント運営 - その他GSセンター運営に関する業務	- コミュニティスペース運営（利用者対応含む） - イベント企画運営 - ニュースレター「GSメンバーシップ」執筆・配信 - 広報活動 - その他GSセンター運営に関連する業務

活動

◆ うけとめる

- GSセンター「利用者受付票」からのデータ
- 個別相談利用者データ
- 個別相談に関連する運用アップデート

◆ つなげる

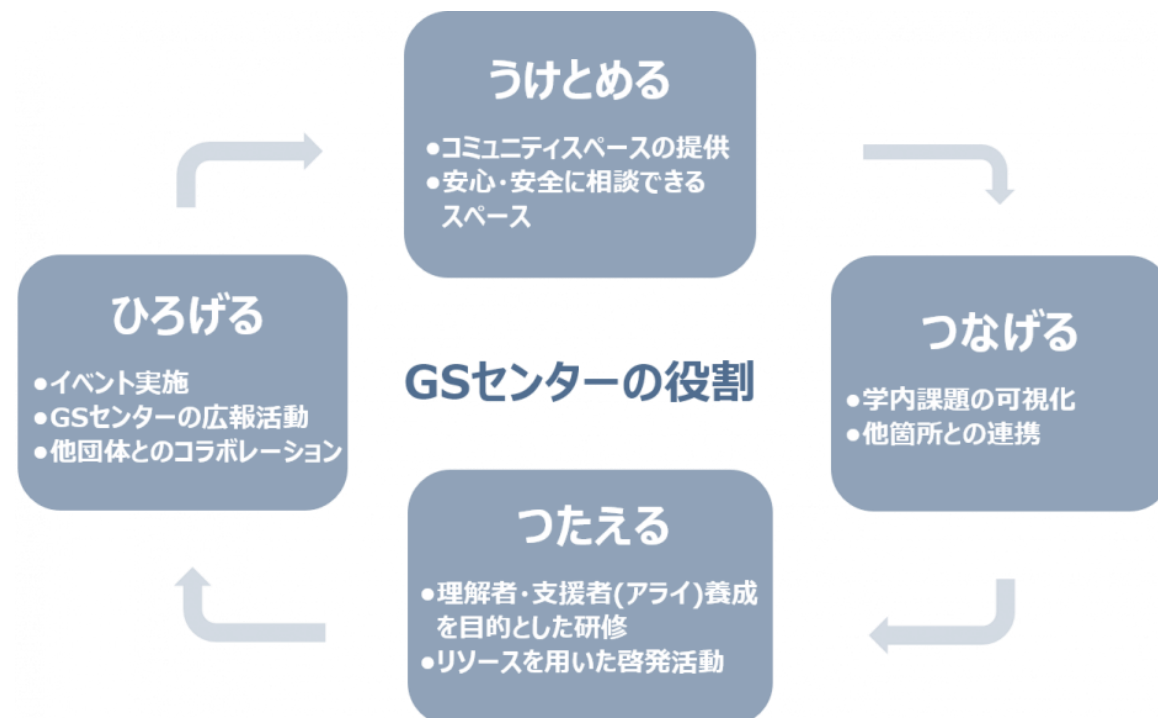
- 学内制度・運用の改善と働きかけ

◆ つたえる

- 学生・学内教職員向けGSセンター紹介
- 学内研修・啓発

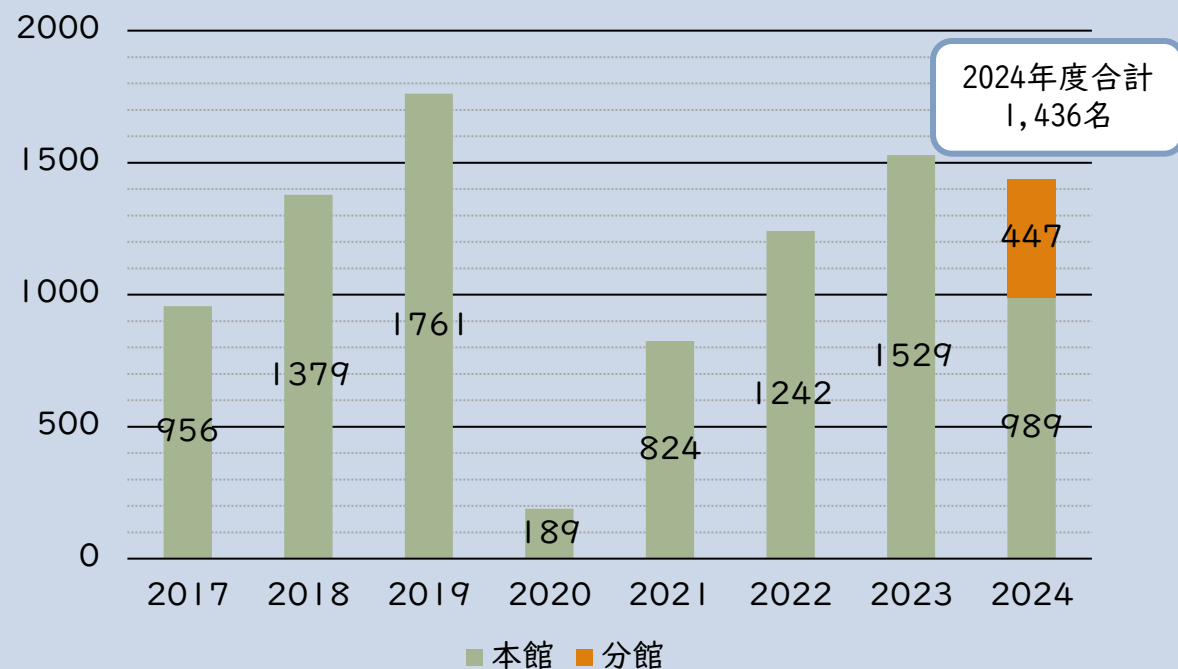
◆ ひろげる

- イベント
- 学外活動
- メディア掲載



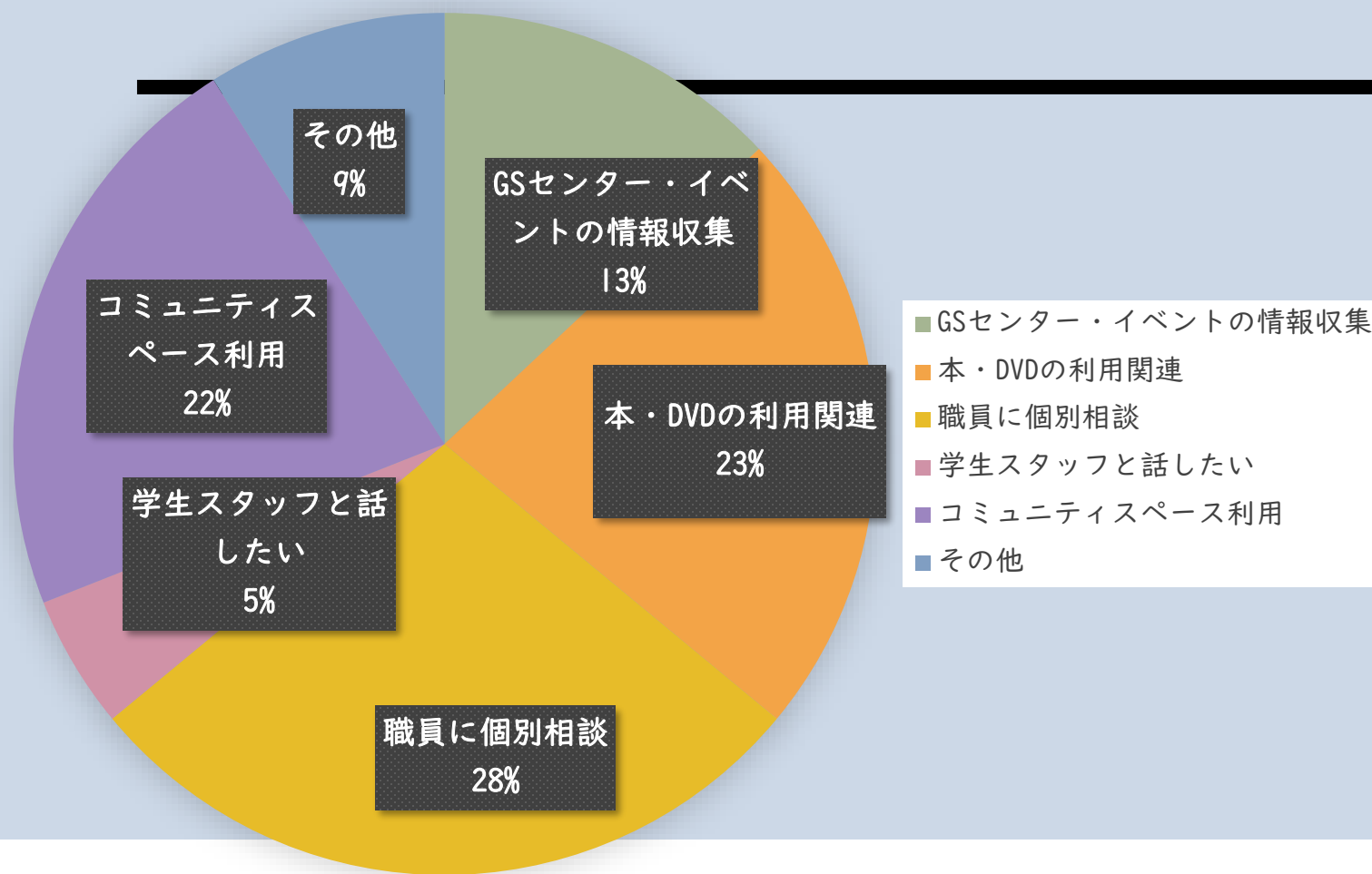
利用者数（延べ人数）<うけとめる>

年間利用者数の推移



GSセンター来室時に記入いただく「利用者受付票」から集計したデータによると、2024年度の延べ利用者数は1436名でした。2024年度はGSセンター史上初めての二拠点体制になり、戸山キャンパス本館には延べ989名、早稲田キャンパスには延べ447名からの利用がありました。

利用目的 <うけとめる>



もっとも多い利用目的は「職員に個別相談相談」(28%)でした。次いで、「本・DVDの利用関連」(23%)「コミュニティスペース利用」(22%)と続きます。

この結果から、ジェンダー・セクシュアリティに関連する個別相談サービスの必要性はもちろん、ジェンダー・セクシュアリティに関するセーフスペースという、安心して集まることができる場所のニーズの高さがうかがえます。

また、図書の利用も多く、リソースセンターとして関連書籍を充実していく意義も見出せました。

※複数回答あり

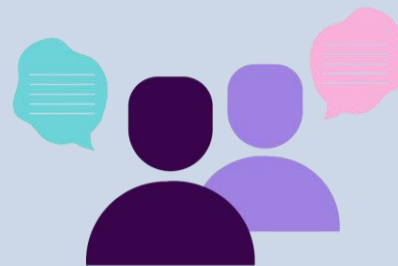
※「利用者受付票」の記入は対面での来室時のみお願いしたため、オンラインでの「個別相談」利用者や「学生スタッフと話す」ためのオンラインでのおしゃべりラウンジ参加者の回答は含まれません

個別相談実施回数

<うけとめる>



458回



利用者の希望に基づきキャンパスでの対面
とオンラインでのリモートにて、日本語と
英語で受け付けました。

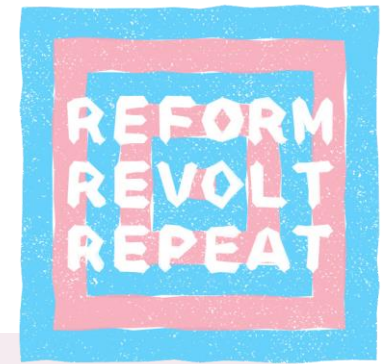
個別相談に関するアップデート <うけとめる>



戸山キャンパス内に新設されたGSセンター個別相談室

2024年6月のGSセンター本館移転に伴い、早稲田キャンパス10号館GSセンター分館の個別相談室に加え、戸山キャンパスで使用するGSセンター個別相談が新設されました。

10号館での個別相談と同じく、予約時にGSセンター本館コミュニティスペースでの受付か、担当専門職員と直接の別室での受付かを選ぶことができます。



学内制度・運用等の改善と働きかけ<つなげる>

「サークル・課外活動 ジェンダー・セクシュアリティ DE&Iガイドブック」の発行（学生生活課との連携）

「アライサークルプロジェクト」を立上げ、LGBTQ+を含むすべての学生が安心して過ごせるサークル・課外活動づくりを目的として、学生生活課と連携のうえ、実態調査やイベントを実施しました。そちらで認識した課題を解決するための一つの方法として、ガイドブックを発行・公開しました。ジェンダーやセクシュアリティに関する基礎知識のほか、個人および団体でのサークル・課外活動運営で活用可能な実践例などを掲載しています。

<https://www.waseda.jp/inst/gscenter/news/2025/03/31/8049/>

だれでもトイレ表記や増設の働きかけ（主に企画・建設課やダイバーシティ推進室との連携）

キャンパス内の「だれでもトイレ」はその名の通りだれでも自由に利用できるはずのところ、例えば車椅子マークしか表記がない等で、利用を躊躇する声がGSセンターに寄せられてきました。そのため、企画・建設課にオールジェンダー表記の追加を依頼しました。また、多くの学生が利用する号館を中心に、だれでもトイレを増設するよう引き続き働きかけています。

<https://www.waseda.jp/inst/diversity/support/accessibility-map/>

通称名使用願の様式変更（教育企画課との連携）

従前は通称名使用願の書式に、自認する性に基づく通称名の使用を希望する場合の「理由の正当性を補足するもの」として提出が求められている書類が何であるのかについて記載がありませんでしたが、新書式には「※例：診断書、GSセンターの意見書」と補足が付きしました。これにより、診断書等の書類を持たない人でも通称名使用が可能であることがより明確化されました。また、同書式の「確認事項」の項目がより詳細になり、インフォームド・コンセントの理念と実践を行いやすくなりました。

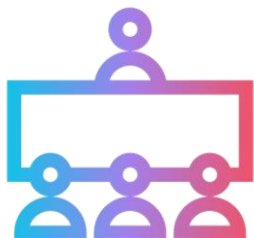
<https://www.waseda.jp/inst/gscenter/guide/document/>

早稲田大学LGBTQ+ 学生生活サポートガイド Version 8
P.9「04 通称名の使用」

学生定期健康診断（保健センターとの連携）

多様なジェンダー・セクシュアリティの学生にとってよりインクルーシブな健康診断とするため、保健センターとの意見交換を複数回実施しました。具体的には、会場内の案内表示等におけるバイナリーな表現の見直し・修正や収集される性別情報の明確化、特定のジェンダーの医師の診察を希望する場合の申告プロセスが明確化されました。

学生・学内教職員向けGSセンター紹介<つたえる>



実施数

11回

学生スタッフによる「新入生がジェンダーやセクシュアリティの講義を初めて受けているその時に、はじめての大学生活でモヤモヤしたり傷ついたことがあれば、その気持ちを安心して話す場所があること、またその気持ちを共有することができる人がいることを知ってもらうため」、多くの教員との連携の上、学生と新入職員を対象に訳20名～600名までのさまざまな規模の会場でGSセンターの存在と活動を紹介しました。

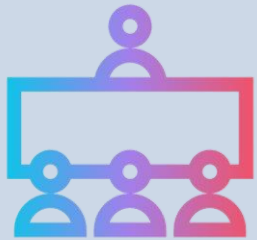
実施日	授業・イベントタイトル	担当者
2024/4/3	社会科学部新入生オリエンテーション	専門職員
2024/4/4	わせだ日本語サポート 学生スタッフオリエンテーション	専門職員
2024/4/11	新入職員研修（4月入職者対象・人事課主催）	専任職員
2024/4/8	留学センター国費留学生オリエンテーション	専門職員
2024/5/17	ジェンダーと教育（村田晶子教授）	学生スタッフ
2024/9/18	政治経済学部新入生ガイダンス	学生スタッフ
2024/9/18	アジア太平洋研究科新入生オリエンテーション	学生スタッフ
2024/10/2	キャリアスタートガイダンス（人間的力量PJ）	学生スタッフ
2024/10/3	わせだ日本語サポート 学生スタッフオリエンテーション	専門職員
2024/11/7	新入職員研修（10月入職者対象・人事課主催）	専任職員
2025/1/14	新入職員勉強会（入職1,2年目対象）	専門職員

学内研修・啓発① <つたえる>

2024年4月施行の改正障害者差別解消法により義務化された合理的配慮の実施や、なお多くの課題が残る LGBTQ+学生への配慮等について、学内での啓発活動をより一層強化いたしました。これを「異次元の広報戦略」と称して、アクセシビリティ支援センター（ARC）とともに、各学術院教授会や運営委員会に訪問して、対面あるいはオンラインで「知らないうちに排除や加害を生まないためのLGBTQ+の学生も安心して学べる環境づくり」をテーマに講習会を実施しました。

分類	実施日	箇所	会議名
学術院	2024/6/20	理工学術院	学術院教授会
	2024/10/10	社会科学総合学術院	学術院教授会
	2024/10/17	国際教養学部	学部運営委員会
	2024/10/22	教育・総合科学学術院	学術院教授会
	2024/11/5	日本語教育研究科	講習会
	2024/11/13	政治経済学術院	学術院教授会
	2024/12/9	アジア太平洋研究科	研究科運営委員会
	2024/12/18	文学学術院	学術院教授会
	2025/1/22	法学学術院	学術院教授会
その他	2024/8/26	ダイバーシティ推進室	早稲田大学グループ ホールディングス向け研修
	2024/9/11	理工学術院 技術部	技術系夏季集合研修
	2024/9/26	本庄高等学院	ダイバーシティ講演会

学内研修・啓発② <つたえる>



学内研修実施数

15回

+

『早稲田大学
LGBTQ+ 学生生活
サポートガイド
Version 8』発行

<学内研修> 各学術院教授会や運営委員会への訪問研修（前頁記載）を除く

- ◆ Allly養成研修（入職1,2年目の専任職員・学生支援に関わる箇所の専任職員を中心に実施）全4回
- ◆ ジェンダー・セクシュアリティに関する職員勉強会（学内様々な箇所から職員が参加）全9回
- ◆ GSセンター学生スタッフ研修 全2回

<啓発>

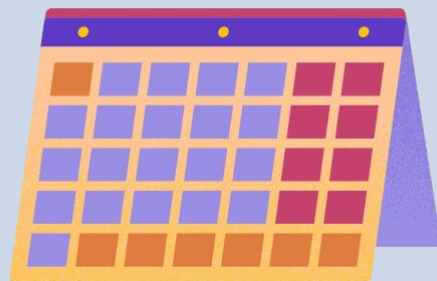
- ◆ 『早稲田大学LGBTQ+学生生活サポートガイド Version 8』発行



イベント <ひろげる>

Very insightful and well run event. The documentary was incredibly touching and it brought back my own feelings of anxiety around coming out. I hope that things will be easier for the next generation of LGBTQ+ people. Thank you for organising this!

「『出櫃（カミングアウト）—中国LGBTの叫び』映画上映会&監督アフタートーク」
参加者感想より



イベント実施数

30回



イベント参加者数

2,250人以上

(新歓グッズ配布対象人数を含む)

現在4年生だが、このようなパレードに初めて参加した。2年生の時は存在を知らず、建物の中から声を聞いていた。3年生の時は勇気が出ず参加しなかった。卒業目の4年生になって、参加出来てうれしい。最初は怖かったが、一体感を感じることが出来た。

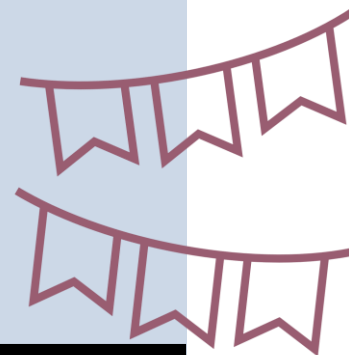
「WASEDA QUEER PARADES OF REMEMBRANCE 追悼 2024」 参加者感想より

サークルも含めた様々な場所で、自分がどう働きかけていけるのか悩んでいた。このイベントを通して、他の方々が実践している発言のやり方を聞くことができ、自分なりに出来そうなことの糸口を考えてみたいと思えた。

「多様なジェンダー・セクシュアリティを包摂するサークル/部活動を考える会」
参加者感想より

小・中規模イベント内訳と開催報告記事

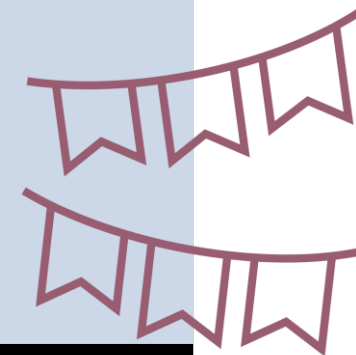
<ひろげる>



開催期間	イベントタイトル	参加者数
2024/5-2025/1	おしゃべりラウンジ／Conversation Lounge (全13回) 広告とジェンダー、サークルや部活動のもやもや、国際ノンバイナリーの人たちの日／ノンバイナリーアウェアネスウィーク、西早稲田キャンパス出張版、パレードのプラカードを作ろう！、スポーツと健康とジェンダー・セクシュアリティ、Ace/Aro、家族との関係性、授業・ゼミに関すること、見た目に関すること、あれってガスライティング？等々	94
2024/6/21	こんな広告は嫌だー広告を持ち寄ってマシな広告を考えてみる会ー	8
2024/7/19	『出櫃(カミングアウト)中国 LGBT の叫び』映画上映会&監督トークイベント	28
2024/10/18	多様なジェンダー・セクシュアリティを包摂するサークル/部活動を考える会	20
2024/10/21	～Aロマンティック (and/or) Aセクシュアル&かもしれない人へ～ 「あたりまえ」の恋愛が分からない私たちのしゃべり場	19
2024/10/30	～クワロマンティック&かもしれない人へ～ 「恋愛？何それ？」な私たちのしゃべり場	16

※各イベントタイトルをクリックすると開催報告記事等にアクセスいただけます

大規模・コラボレーションイベント 内訳と開催報告記事<ひろげる>



開催期間	イベントタイトル	参加者人数
2024/4/1	3号館出張！おいでよGSセンター（新歓編）	1,043
2024/8/3-8/4	オープンキャンパス（全4イベント） ・GSセンター見学『おいでよ！GSセンター』2日間（145人参加） ・学生参画運営委員会（SPEC）企画「Wトーク」2回（GSセンター学生スタッフ出演回、596人参加）	741
2024/8/28	第2回 LGBTQ+キャンパスインクルーシブネットワーク（16大学から代表者が参加・中央大学にて開催）	35
2024/11/25-12/6	WASEDA LGBTQ+ ALLY WEEKS 2024（全7イベント）	225
2024/12/19	Diversity Career Forum2024「MEET-UP」	96
2025/1/10	LGBTQ+&かもしれない人のための就活・就労 ・ゲスト 岩崎徳子さん、なつこさん、ともさん、米田さん ・協力 早稲大学キャリアセンター	23

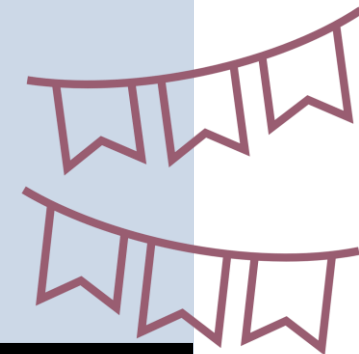


WASEDA LGBTQ+ ALLY WEEKS 2024「WASEDA QUEER PARADES OF REMEMBRANCE 追悼」の早稲田キャンパスパレードで的一幕

※各イベントタイトルをクリックすると開催報告記事等にアクセスいただけます

WASEDA LGBTQ+ ALLY WEEKS

内訳と開催報告記事<ひろげる>



開催期間	イベントタイトル	参加者人数
2024/11/18	パレードのプラカードを作ろう！（プレイベント）	17
2024/11/25	WASEDA QUEER PARADES OF REMEMBRANCE 追悼（所沢キャンパス）	14
2024/11/26	ツルリングスター作品から考える Allyの在り方 （ゲスト ツルリングスターさん）	49
2024/11/27	WASEDA QUEER PARADES OF REMEMBRANCE 追悼（戸山キャンパス）	35
2024/12/2	WASEDA QUEER PARADES OF REMEMBRANCE 追悼（西早稲田キャンパス）	18
2024/12/2	Ally道場 入門編	20
2024/12/4	WASEDA QUEER PARADES OF REMEMBRANCE 追悼（早稲田キャンパス）	72



「WASEDA LGBTQ+ ALLY WEEKS 2024」の
掲示物のコラージュ

※各イベントタイトルをクリックすると開催報告記事等にアクセスいただけます
※パレードおよびプレイベントの開催報告記事は共通です。

学外活動

<ひろげる>

開催期間

イベントタイトル

担当者

2024/12/25

九州大学全学FD「性の多様性を考える研修会」登壇
・ 早稲田大学のダイバーシティに関する取り組みやGSセンターにおける学生支援について報告

SDCセンター長、
専門職員



メディア掲載 <ひろげる>



早稲田ウィークリー

2024/10/14

学生スタッフへのインタビュー記事「早稲田ならではのダイバーシティイベント 参加者の声から魅力に迫る!」が配信されました。

<https://www.waseda.jp/inst/weekly/feature/2024/10/14/123189/>



早稲田ウィークリー

2024/11/25

学生スタッフ2名へのインタビュー記事「サークル・部活動をもっと居心地よく! 多様性を尊重するための工夫とは?」が配信されました。

<https://www.waseda.jp/inst/weekly/feature/2024/11/25/124914/>



日本大学新聞 ONLINE

2024/11/25

日本大学における「LGBTQ+」対応策をテーマとした記事に、先進事例として早稲田大学GSセンターが取り上げられました。

<https://www.nu-press.net/general/20241125112005/>



早稲田大学 ウェブサイト

2025/3/4

学生ライターが執筆したGS センター個別相談利用の体験談が、早稲田大学の英語ウェブサイトに掲載されました。

<https://www.waseda.jp/top/en/news/83551>



統合報告書

2024/10/9

早稲田大学で初めての試みとなる「統合報告書 - Vision Report- 2023-2024」がリリースされ、GSセンターも掲載されました。

<https://www.waseda.jp/inst/vision150/news/7163>

2024年度活動報告

02. 活動: ひろげる

24

03. 次年度に向けて

- ◆ 課題
- ◆ 抱負・目標
- ◆ 活動支援のお願い



GSセンター本館（戸山学生会館1階）のコミュニティスペース

課題

大学制度上・大学構成員のマインドセットと体制

- ・教職員への研修や講習会で啓発に取り組んだり、学内制度について関係箇所に確認・相談のうえ改善してはいるが、まだまだジェンダー二元論的な土台や、シスジェンダー・ヘテロセクシュアル・性愛者主義的な制度、メッセージ、取り組みが根付いている
- ・箇所間、教職員個人、学生活動団体間や学生個人のLGBTQ+コミュニティやジェンダー・セクシュアリティに関連するDE&Iへの取り組みに温度差がある
- ・ジェンダー・セクシュアリティに関連するDE&I推進に対する世界的ともいえる批判や逆風の影響により、GSセンターのミッションの実現に向けた取り組みの停滞を感じる部分がある
- ・学生スタッフの限られた人件費や勤務時間で、実施したいイベントとそのクオリティを可能な範囲で担保することに、難しさを感じる場合がある

GSセンター環境と体制

- ・本館を戸山キャンパス学生会館1階に移し、早稲田キャンパス10号館213室を分館として二拠点化したことで「スペースが狭く、すぐに満員になってしまう／おしゃべり自由なコミュニティスペースと、静かに過ごす図書スペースの担保が難しい」などの課題が解消された反面、現在の限られた人員で二拠点を運営することに難しさがあるが、シンボリックでもある早稲田キャンパス分館を継続利用するためにも活用方法について検討する必要がある

GSセンター周知

- ・学生の所属学部・研究科やキャンパスによってGSセンターの認知度やアクセスのしやすさが違う
- ・芸術学校・附属機関・附属校所属の学生・生徒にもリソースとして認識してもらえる工夫が必要
- ・GSセンターのことを認知していない教職員もいるため、GSセンター側の広報活動にさらなる工夫が必要（教職員は学生に対して影響力を有する立場にあり、こうしたリソースの存在や価値を理解していることが個々の学生にも増して重要、という認識を共有したい）
- ・「GSセンターはジェンダー・セクシュアリティについてとてもよく勉強している人のためのセンター」だという印象を与えてしまっている部分がある
- ・本学の教職員も、GSセンターの個別相談（学生・生徒関連の相談に限る）や図書を利用できることをさらに周知したい

抱負・目標

大学制度上・大学構成員のマインドセットと体制

- ・学生担当教務主任会でのGSセンターの活動や課題の共有と、学内研修・学内連携の機会を通して、
 - どうすれば学内でのDE&Iの優先度を上げられるかを考え、ジェンダー二元論的な土台や、シスジェンダー・ヘテロセクシュアル・性愛者主義的な制度、メッセージ、取り組みを改善し、あらゆるジェンダー・セクシュアリティのあり方の学生に対して過ごしやすい大学であるためアップデートし続けたい
 - 心理的に使用しやすい配置の多機能な誰でもトイレを、西早稻田キャンパスを含む大学全体で充実させたい
 - GSセンターのミッションや活動のアライを増やしたい
 - 「SOGIハラスメント」とその防止・介入についての知識を有する大学構成員を増やしたい
 - ジェンダー・セクシュアリティに関する学びを深める有志によって実施されている職員勉強会により多くの職員が参加できるように、業務時間内で開催できるよう人事課等関係箇所と協働したい
- ・LGBTQ+の学生のキャンパスライフでのニーズをアンケートなどを通して把握したい

GSセンター環境・体制

- ・マルチリンガルの学生スタッフや職員の増員など、言語キャパシティを上げたい
- ・人事課等関係箇所との連携を通して人員的・時間的余裕を最大化したい
- ・参加型のワークショップ形式のイベントを増やしたい
- ・ジェンダー・セクシュアリティのテーマにおいて見過ごされたり隅に追いやられてしまうことのあるアイデンティティにフォーカスを当てたイベントを増やしたい
- ・アライをもっと増やすため、ジェンダーやセクシュアリティに関する知識や理解がまだ浅い人、これから学び始める人たち向けにイベントをもっと増やしたい
- ・心や体に傷ついた経験（トラウマ）を持つ人が安心して参加できるように、傷つきやすい話題や状況（トリガー）をできるだけ避けながら、安心感や信頼関係を大切にする運営方法（トラウマ・インフォームド・アプローチ）を取り入れて、さらに安全な環境や空間をつくっていききたい

GSセンター周知

- ・西早稻田キャンパス、所沢キャンパス、北九州キャンパスなど、GSセンターから離れたキャンパスでのGSセンターの認知度や、ジェンダー・セクシュアリティに関する話をすることができる機会を増やしたい
- ・学生スタッフと職員の協働でGSセンター紹介の機会を増やし続けたい

活動支援のお願い



GSセンター本館の書籍等、多様なリソース

2023年度より、GSセンターのジェンダー・セクシャリティの啓発を目的とする運営経費のご寄付を行っていただける仕組みができました。

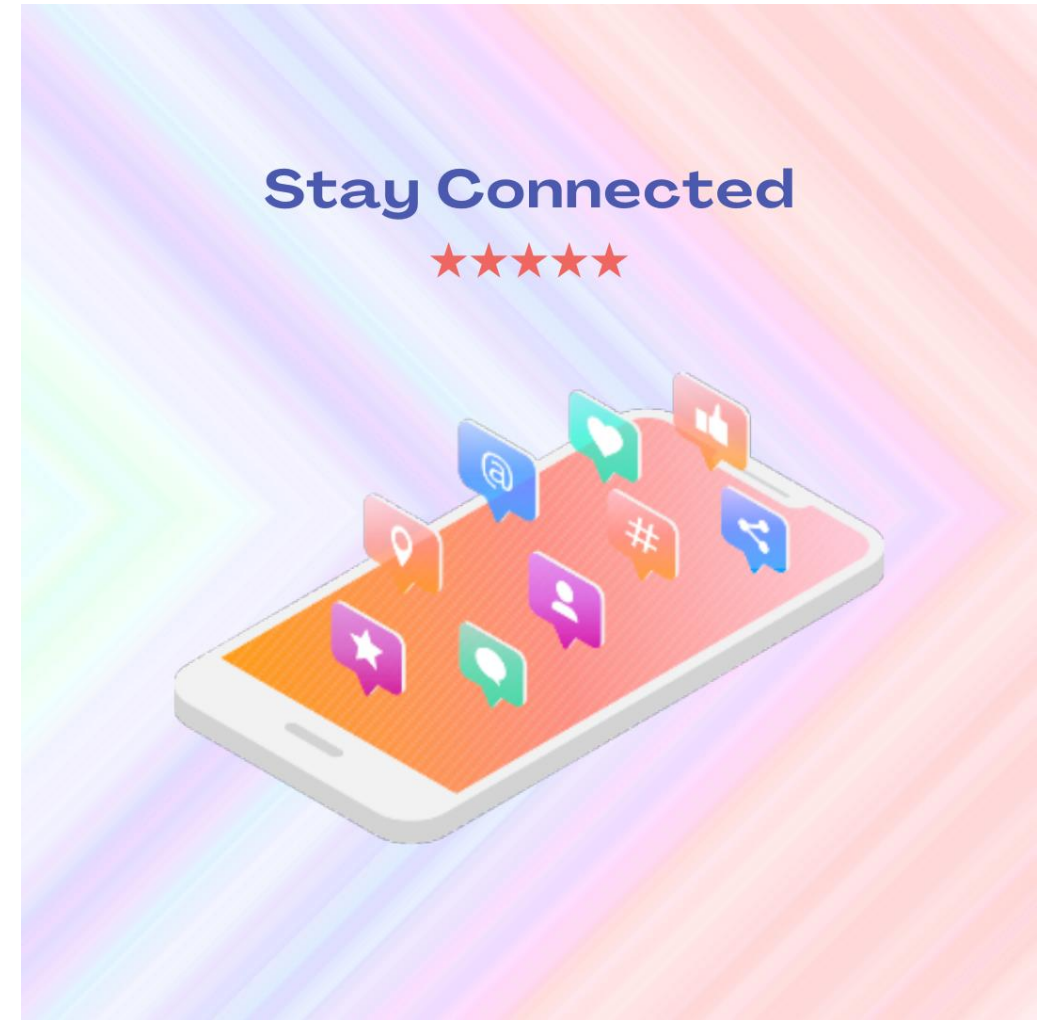
GSセンターはこの先も「セーフスペース兼リソースセンター」であり続けるべく、学生や教職員のニーズに沿って常に進化し続けながら活動していきます。

GSセンターの設立趣旨や活動にご賛同いただける場合は、[こちらのウェブページ](#)から指定寄付金を受け付けておりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



04. ソーシャルメディアと 問い合わせ先

- ◆ ウェブサイト
- ◆ 各種ソーシャルメディア
- ◆ ニュースレター（GSメンバーシップ）
- ◆ お問い合わせ



04. ソーシャルメディアと問い合わせ先



Website

<https://www.waseda.jp/inst/gscenter/>



Instagram

<https://www.instagram.com/gscenter.waseda/>



Instagram 2
(図書紹介アカウント)

https://www.instagram.com/gscenter.waseda_library



Facebook

<https://www.facebook.com/wasedags/>



note

<https://note.com/gscenter>



Newsletter
(GSメンバーシップ)

<https://www.waseda.jp/inst/gscenter/more/sns/>

問い合わせ先: gswaseda@list.waseda.jp

編集・発行者 早稲田大学スチューデント・ダイバーシティ・センター (GSセンター)

無断コピーおよび無断転載を禁じます。コピー・転載・引用等される際には、必ずメールにてご連絡いただきますようお願いいたします。